

ふるさとと銀河線

民謡と伝説の旅

附：ふるさと銀河線ダイヤグラム・年表

(北海道観光大全編 <http://www.onitoge.org/>)

池田町

※各年の人口は国勢調査による

人口	大正一四年	一三、一八〇人
	昭和三五年	一六、七三一人
	平成一七年	八、一九一人

あきあじ音頭

作詞 おばらしろう
作曲 渋谷みのる

- 一、来たよ来ました かぞえて四年 ヨ
生まれ故郷の 十勝川
鮭は海から ススイトネ
海から帰った どんときた ソレ
手拍子そろえて ヤレコノドッコイ
あきあじ祭りだ エンヤサヨイヨイ
- 二、告げに来たかよ 十勝の秋を ヨ
フンベ伝いの あの景色
跳ねて踊って ススイトネ
踊って池田へ どんときた ソレ
手拍子そろえて ヤレコノドッコイ
あきあじ祭りだ エンヤサヨイヨイ
- 三、鮭はしろがね 稲穂はこがね ヨ
おどる千代田の 河原月
人のなさけで ススイトネ
情けで育って ドントキタ ソレ
手拍子そろえて ヤレコノドッコイ
あきあじ祭りだ エンヤサヨイヨイ

十勝ワインで知られる池田町のもう一つの名物は、十勝川千代田えん堤下におけるあきあじ(鮭)の捕獲。現在のあきあじ音頭は昭和四三年に吹き込まれた。艦をこぐ動作を採り入れた特徴ある振付けで、民謡の全国大会でもよく踊られている。

ふるさとと銀河線各駅紹介

池田 明治三七年一二月一五日開業。JR根室本線の接続駅。ちほく高原鉄道の窓口はないため、乗車券は自動券売機で購入する。改札口はJRと共用している。

様舞 酪農地帯の中に小さな待合室と板張りのホームがあるだけの駅。極めて開放的な駅前風景が印象的。ふるさと銀河線の中でもとりわけ利用者が少ない駅である。

高島 駅本屋、ホーム待合室、危険品庫、便所など古い建物がそのまま残っている。平成一〇年四月無人化。周辺は比較的大きな市街地で、高校生の利用が多い。

大森 もと仮乗降場で、待合室もない小さな駅。ホームの発車時刻表は国鉄時代の駅名標を転用している。駅裏には道東自動車道が走っている。

勇足 貫禄ある駅前風景で、典型的な農村集落といった趣である。天気が良いれば北見方面に雌阿寒岳を望む。駅舎は平成五年一月竣工。駅名はアイヌ語のエサンビタラ(突き出た川原の意)に由来する。

南本別 駅前すぐに北海道糖業本別工場があり、もともと工場の従業員のために設置された駅。周辺に人家はなくひっそりとしている。

岡女堂 平成七年九月四日、甘納豆メーカーの岡女堂が建設費の全額を負担して新たに設置した駅。駅に隣接して甘納豆の売店、豆神社、豆ドーム神戸村などがある。列車が到着すると音楽が流れてくる。

本別町

人口 大正一四年 九、〇八八人
 昭和三五五年 一七、〇一四人
 平成一七年 九、〇七二人

本別餅つき唄

作詞 佐々城楡夫
 作曲 景山 齊

一、春は祭りの 紫つつじ
 ハーヨイシヨ コラドッコイヨイトナ
 (囃子以下同じ)
 あの娘あいどり 草餅つけば
 家中街中が 出てはやす

二、搦き手 唄い手
 おやじ仕込みの 開拓餅よ
 昔ばなしも 搦きまぜる

三、色香ほんのり 美里別川の
 水をうつした 稲キビ餅よ
 生まれ勇足 肌のよさ

四、搦きにきたかや 仙美里むすめ
 まめで達者は 黒豆餅よ
 ビート豊年 駒おどり

五、牛も寝につく 十勝の冬は
 餅を焼きつく 開拓ばなし
 夢もふくらむ 本別峡

昭和四八年制作。明るい歌詞の中にも米の餅が出てきていないあたりが開拓時代の労苦が偲ばれる。紫つつじの名所は義経山の麓に広がる本別公園。ここを奥に進めば幽仙峡を経てウコタキヌプリに至る。天から鹿が下る山だといひ、アイヌは猟に出るとき必ずこの山にイナウを捧げたという。

足寄町

人口 大正一四年 九、三六一人
 昭和三五五年 一九、三八五人
 平成一七年 八、三一五人

(西足寄村、足寄村を含む)

西足寄小唄

作詞 渡辺るいと
 作曲 平川浪竜

一、春は賑わう常盤台
 花の影さす観音堂
 かすむ神社の鳥居も高く
 希望輝く 西足寄
 トコサイサイ アレワイサノサ西足寄

二、豊受稲荷に願かけて
 利別河原の夕涼み
 誰を待つ身か 両国橋の
 袂恥かし 月明かり
 トコサイサイ アレワイサノサ月明り

三、ちよいとドライブ 富士見台
 坂は四十と七曲り
 青葉若葉に 山女が踊りや
 芽登温泉 ほのぼのと
 トコサイサイ アレワイサノサほのぼのと

四、阿寒火の山 恋の山
 しずむマリモに 謎秘めて
 仰ぐ峰々 燃え立つ紅葉
 湖畔湯の町 夢の町
 トコサイサイ アレワイサノサ夢の町

五、根雪輝く 街の灯に
 木材の香なつかし 貯木場
 巡る名所の 数々よりも
 豆の足寄は 日本一
 トコサイサイ アレワイサノサ日本一

昭和二七年公募により選定。当時、駅の東方七〇〇mの両国橋で十勝国中川郡西足寄町と釧路国足寄郡足寄村が境を接していた。一方の旧足寄村はラワン葎やオンネトーで知られた。昭和三〇年合併。

本別 有人駅。駅舎は平成三年九月、北斗七星をイメージした「ステラプラザ」に建て替えられた。内部にはお土産屋や郵便局があるが、レストランは営業を休止している。ホームは旧来のままで、古い木造の跨線橋が残っている。

仙美里 勇足とよく似た形の駅舎。平成四年一二月の竣工。駅前には小さな市街地が形成されている。

足寄 有人駅。駅舎は平成七年二月に竣工した「あしよる銀河ホール」に。道の駅にも指定されており、物産館、松山千春コーナー(二階)、展望塔(九階)などがある。

愛冠 縁起のよい駅名のため入場券を求めに訪れる人が多く、国鉄時代に王冠型の駅舎や愛の泉が整備された。駅前に架かる橋は Wedding Bridge という。待合室のポスターにも注目。

西一線 待合室はここ独特のもので味わい深い。トイレは凄絶で用を足すには勇気が必要。

塩幌 国道から細い道を下ったところであり、外界と隔絶されている。駅のまわりには廃牧場が一軒あるのみ。駅から国道をまたいでまっすぐ延びる道道清水谷足寄線はミルクロードと呼ばれ、起伏に富んだ素晴らしい酪農景観が展開する。

上利別 昭和一〇年築の古い駅舎の外に足寄高校美術部が絵を描いている。CTC化により平成九年三月無人化。交換設備を有するが、定期列車同士の交換は行われていない。待合室では廃線を惜しむ展示が行われている。駅前風景は時間が止まったかのよう。

笹森 国鉄時代は仮乗降場だった駅。池田側的小屋の中に駅ノートが置かれている。

英傑カネラン

十勝達別にカネランという偉い酋長がいた。雷の子孫であると伝えられ、この人が歩くと、いつもその上を雷がゴロゴロとなつてついて歩いた。その為に、山狩に行つても、雷の音が激しい為に、熊でも鹿でも皆逃げてしまつて獲物をとるのに困つた。

或る時のこと山狩に行くと、大きな熊の足跡を発見して追つて行くと、相変らず雷が大きくなるので熊に逃げられてしまった。カネランはガツカリして、こんな大きな熊をとつたら部落の人達がどんなに喜ぶだろうにと嘆いていると、目の前に霧が風に巻かれておちて来て、その中から何か光るものが踊るように動いている。よく見ると頭に角のある蛇のようなものだった。それが川の中へおちて、パタンパタンしているのを、自分の着ていた着物を脱いでかぶせて押え、それを持って歩きながらこんなものはいらぬから、先刻の熊をささずけて呉ればよいのにと独言を言いながら行くと、先に逃げた熊が行先に居眠りをしているのを見つけたので、風下にまわつて忍んでゆき射殺することができた。それで天から落ちてきたものを猟の守神とし箱の中に入れて、家の者にも仲間の者にも見せないで納めて置いたが、それからは運がよくて、北見にも十勝にもない長老になつた。カネランという名は、神様が天からささずけものを下して運がよくなつたの

で、カムイラン(神様が下る)というのがカネランになつたのであるという。

カネランの砦は達別川が利別川に合流する少し上の、ウキンナイという支流の落口にあるもので、ここに砦をつくつてウキンナイをつたつて厚岸の方から山越して来る、厚岸軍を迎え撃つて破つたと伝えられている。尚達別の関神社のある砦は、厚岸軍の築いた砦であつて、トルケスツクという者がカネランをここから攻めたのであるという。この者は後に阿寒の舌辛で、日本人と酒をのんで殺されたというが、腹を裂いてみたら心臓が石であつたという。

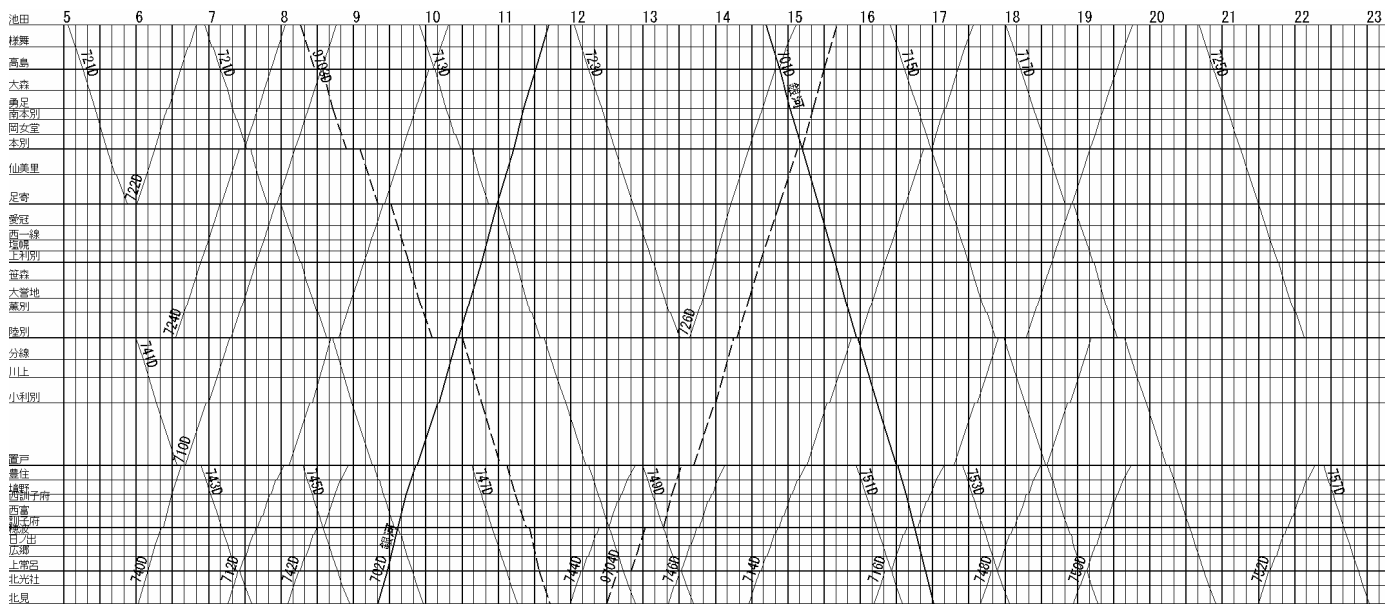
尚カネランはもと北見の藻琴の人で、兄弟三人で北見から山越をして達別に来たが、その年は寄生木を食うほどの飢饉の年であつたので、第二人は阿寒の方に行き、カネラン一人が達別に残つたのであるという。



陸別駅観光スタンプ

『北海道の傳説』更科源藏・渡辺茂編著、柏葉書院、一九五二より

ふるさと銀河線ダイヤグラム



9703D、9704Dは「さよならふるさと銀河線号」(4月20日運転)

陸別町

人口 大正一四年 五、七七六人
昭和三五五年 八、五一二人
平成一七年 二、九五六人

陸別木やり音頭

作詞 齊藤省三
作曲 川岸新一

一、山は緑に 陽は映えて
おので拓いた りくんべつ
栗毛の鈴とかけ声で
キンゴー丸太も 切り出さる
ヤンサノコレワイサ ヨイトコシヨウダ
ヤンサノコレワイサ ヨイトコシヨウダ

二、くねの川を 下りゆく
におう木の香や 風にのり
トビの船頭にあやつられ
下る山幸 流れゆく
ヤンサノコレワイサ ヨイトコシヨウダ
ヤンサノコレワイサ ヨイトコシヨウダ

三、丸太置場の えぞ松も
木やり音頭で くずれゆく
台車づみのかけ声も
さえて街なか こだまする
ヤンサノコレワイサ ヨイトコシヨウダ
ヤンサノコレワイサ ヨイトコシヨウダ

陸別は木の町で大正の末から昭和四一年にかけて八〇km以上の森林鉄道が敷かれた。昭和四六年に創作された郷土芸能「えぞ木やり」はここ数年活動が途絶えているが復活の兆しもあるという。過疎化は著しいが、「しばれフェスティバル」や「銀河の森」でひとときわ輝く美しい山村である。

置戸町

人口 大正一四年 七、九〇七人
昭和三五五年 一、五六二人
平成一七年 三、六九九人

置戸音頭

作詞 時雨音羽
作曲 田村しげる

一、置戸木の国 数ある中で ヨイヨイ
月の見とれる ヤレソレナ
月の見とれる 木もござる
ヨウイナツソレ ヤレソレナ
ヤアレ ヨツソレ ヨウイトナ
ソレヤレソレナ

二、筏流しは 深山の花を
のせて早瀬の ヤレソレナ
乗せて早瀬の 瀬を下る
ヨウイナツソレ ヤレソレナ
ヤアレ ヨツソレ ヨウイトナ
ソレヤレソレナ

三、ピリリほどよく 野わさびおろし
誰にまことを ヤレソレナ
誰にまことを きかそやら
ヨウイナツソレ ヤレソレナ
ヤアレ ヨツソレ ヨウイトナ
ソレヤレソレナ

網走本線が開通すると「置戸木の町」として全道に名を馳せ、最盛期には町内に七〇km以上の森林鉄道が敷かれた。利尻生まれの作詞家・時雨音羽が手がけたこの音頭は、いまも盆踊りで踊られているという。

大誉地 もと交換可能駅で島式のホームに古い待合室が残る。駅舎も旧来のまま。

薫別 待合室の華奢なベンチが印象的で、鉄道ファンにはよく知られた駅である。

陸別 有人駅。駅舎は平成五年二月「オーロラタウン33」に改築された。道の駅にも指定され、関寛斎資料館、宿泊施設を併設している。

分線 利用者が少ないながらもログハウス風の待合室は暖かみがあり、鉄道ファンには人気がある。分線駅と川上駅の間は徒歩で移動する旅行者が多い。

川上 利用者がいないため一時は廃駅となる計画もあったが、大正九年開業当初の木造駅舎がそのまま残ることから、最近では旅行者の間で人気が高まっている。待合室には駅の歴史を紹介する展示がある。

小利別 ふるさと銀河線発足後、駅舎改築の第一弾として平成二年一二月に現駅舎が完成。小利別は道内で最も寒いところの一つでマイナス四〇℃近くまで下がることもある。

置戸 有人駅。駅舎の「おけとコミュニティーホールぽっぽ」は平成八年一二月に完成。

豊住 畑の中にぼつんとある無人駅で、開放感には線内随一。ホームは通学列車に対応するための延長工事で板張り＋コンクリート＋枕木敷きの三段構造になっている。

境野 もと交換可能駅で、大正一一年開業当時から駅舎には「食事とコーヒーの店・まくらぎ」が営業していたが平成一八年三月五日をもって閉店した。

訓子府町

人口 大正一四年 六、一〇三人
昭和三五年 一〇、六四四人
平成一七年 五、九八一人

訓子府小唄

作詩 大塚みつる
作曲 松田喜一
編曲 長津義司

- 一、温む流れよ 芽を吹くにれよ
昔惚ばす 社のもりに
春はおぼろの 月もでる
ああ訓子府 詩の町 詩の町
 - 二、招く深山よ 君よぶ湖よ
今日も夏空 旅ゆく人の
ふきの日傘の せみ時雨
ああ訓子府 旅の町 旅の町
 - 三、丘の牧場よ 草はむ駒よ
赤いサイロに カッタが鳴れば
秋の日和の 紅とんぼ
ああ訓子府 稔る町 稔る町
 - 四、匂う冬陽よ 葉の草よ
夜長が一夜さ 初する頃は
ビート畑に 雪もくる
ああ訓子府 幸の町 幸の町
- 詩情豊かに美しい農村風景を描く。酪農やビートに加えて、米の生産調整以降は玉ねぎやメロンの一大産地となり、車窓にも大きな農作物の倉庫が見える。君よぶ湖とはチミケツプ湖のことであろうか。長津義司は三波春夫の歌謡浪曲で知られる作曲家。

北見市

人口 大正一四年 二七、三九六人(稲内村含む)
昭和三五年 六六、九三二人
平成一七年 一〇、五九四人

北見おどり

北見おどり作定委員会選定
編曲 市川昭介

- 一、ハアー
大雪越えりや からりと晴れてヨ
薄荷の匂いに 薄荷の匂いに
ひばりもむせるのさ
ハア ドッテンコイタ ドッテンコイタ
どんとこいこい どんとこい
北見よいとこい どんとこい
(かけ声、囃子以下同じ)
 - 二、ハアー
オホーツク座敷にや 常呂の流れヨ
あきあじ顔出して あきあじ顔出して
マンボを踊るとき
 - 三、ハアー
北見が丘は くない化粧ヨ
山のおやは 山のおやは
ぶどう狩りだとき
 - 四、ハアー
サハリン風が 一吹き荒れりやヨ
咲いた樹氷で 咲いた樹氷で
花見としゃれるとき
- 昭和四三年、それまでの「新北見音頭」に代わり、夏まつりの舞踊パレード用として制作。「大雪越えりやからりと晴れてヨ」の歌い出しのとおり、北見市は年間を通じて日照率の高い都市である。かつては世界的な薄荷(ハッカ)の産地だった。「どってんこいた」は方言で「驚いた」の意味。

西訓子府 典型的な無人駅で、周辺に人家はない。

西富 最近待合室が扉付きの小屋になった。

訓子府 有人駅。駅舎は平成一二年一月竣工の「くる・ネツプ」。線内では最も乗降客の多い駅で、堂々とした駅前通りを持つ。

穂波 赤い屋根の待合室を持つが、ホームから待合室に入ることは困難。駅名のとおり周辺は水田が多く、うるち米の栽培も可能である。

日ノ出 駅舎は平成一〇年一月に完成。元旦には初日の出を拝む人たちが集うという。

広郷 周辺は玉ねぎの大産地。水はけの悪い待合室は撤去された。

上常呂 駅舎の「上ところコミュニティプラザ」は市役所の支所を併設し、市営住宅に直結している。ただし、待合室は夜間・早朝閉鎖される。

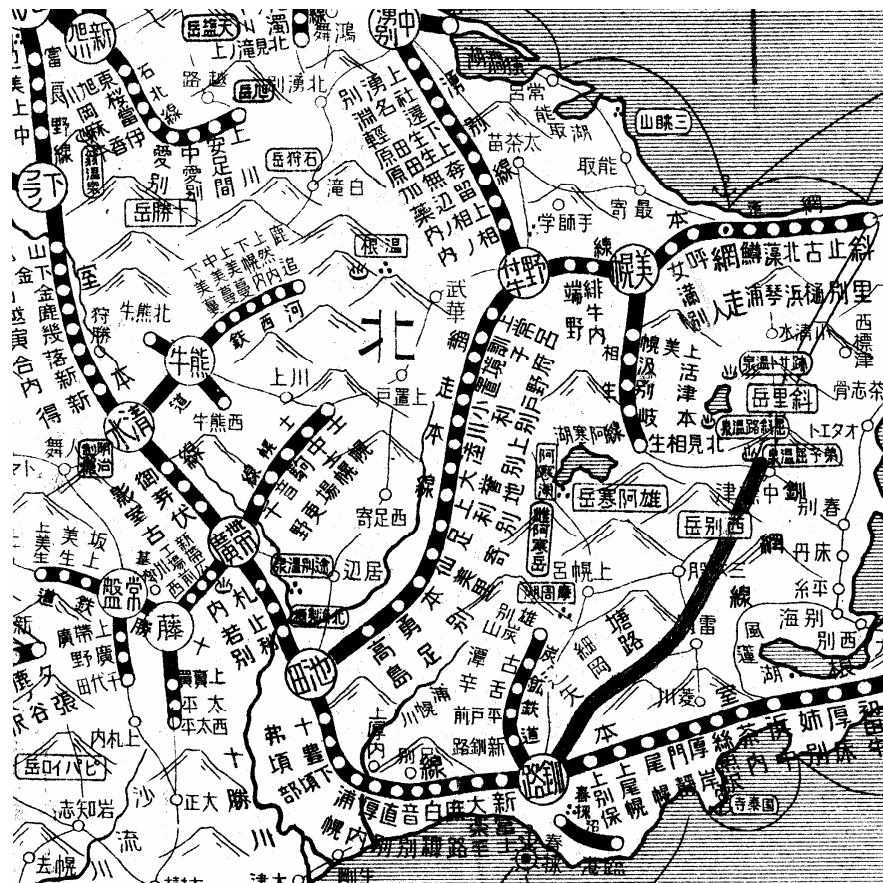
北光社 北光社は北見開拓の祖となった高知県出身者による移民団体。駅の近くには北海学園北見大学があり、学生の利用が多かった。

北見 明治四四年九月二五日開業。JR石北本線の接続駅。下車するときは車内で運賃を支払い、精算済証明書を受け取る。ちほく高原鉄道の窓口はなく、改札口はJRと共用している。

主要参考文献

- 『北海道のうた』重森直樹編著、北海道のうた刊行会、一九七二
- 『十勝地方の民謡』北海道教育庁十勝教育局、一九八九
- 『史稿No.二六 網走本線から池北線そしてふるさと銀河線へ』熊谷祐三著、北見市史編さん事務室、二〇〇五
- 『北の銀河鉄道』佐藤正之著、日本評論社、一九九六
- 『北海道の文化74号』北海道文化財保護協会、二〇〇二

網走本線・池北線 ふるさと銀河線 年表



創立滿二十五周年記念北海タイムス附録「日本鐵道全圖」(1926.5)

- | | | | |
|-----------|---|-----------|--|
| M40.3 | 池田－網走間の鉄道建設工事に着手 | | |
| M43.9.22 | 池田－達別間開通 | | |
| M44.9.25 | 池田－野付牛間開通 | | |
| T 元.10.5 | 網走本線全線開通 | | |
| S7.10.1 | 石北線全通 | | |
| S30.8.20 | 北見－置戸間にレールバス投入 | | |
| S36.4.1 | 路線名を網走本線から池北線に改称 | | |
| S37.8 | 根室本線狩勝信号場－新内間災害により札幌－帯広間の列車が池北線経由で運転される | | |
| S37.10.1 | 準急「第1池北」「第2池北」設定 | H7.9.1 | 運賃改定(平均 22.7%値上げ) |
| S41.3.5 | 準急を急行「池北」に格上げ | H7.12.20 | 北見～置戸間で CTC 使用開始 |
| S46.7.1 | 陸別発着の急行「池北」廃止 | H8.7 | 鉄建公団がふるさと銀河線を利用した札幌－北見間の高速度化について試算。新聞・雑誌で紹介され話題に |
| S55.10.1 | 急行「池北」廃止 | H9.9.9 | レール&ウォーク銀河鉄道 999 開催(以降、毎年開催) |
| S57.11.22 | 第2次特定地方交通線に選定 | H9.11.1 | CTC 装置全線使用開始 |
| S63.11.14 | 第4回池北線特定地方交通線対策協議会会議において第3セクターでの鉄路存続を決定 | H12.2 | ふるさと銀河線経営改善計画策定(様舞駅、薫別駅、川上駅の廃止が計画されるが実現せず) |
| H 元.1.20 | 路線名を「ふるさと銀河線」に決定 | H12.9.1 | 有人駅の窓口が土・日・祝日休業に |
| H 元.2.28 | ちほく高原鉄道株式会社発足 | H13.4.1 | 運賃改定(平均 10.1%値上げ) |
| H 元.6.4 | ふるさと銀河線開業 | H13.7.30 | SL 銀河号運転(8/5 まで) |
| H 元.8.6 | ワンマン運転開始 | H14.7.27 | 「夏休み発見の旅きっぷ」発売(8/11 まで。中学生 200 円、小学生 100 円で1日乗り放題、発売実績 1345 枚) |
| H 元.10.16 | ふるさと銀河線友の会発足 | H14.10.13 | 銀河ホーク号運転(キハ 183 国鉄色) |
| H2.6.2 | 開業1周年記念一日フリーきっぷ発売、初代星娘誕生 | H14.11.2 | 松本零士デザインラッピング車両「999 イエロー&ホワイト号」登場 |
| H3.4.28 | 「お買物割引きっぷ」発売開始(H5 年 10 月で廃止) | H15.3.29 | ふるさと銀河線関係者協議会設置(以降 H17.3.27 まで 13 回開催)。 |
| H3.7.21 | ふるさと銀河線一日フリーきっぷ発売(8/20 まで)、ふるさと銀河線まつり開催(以降、毎年沿線市町持ち回りで開催) | H17.3.27 | 取締役会にて、銀河線の廃止を決議 |
| H4.9.23 | 友情列車「ひまわり号」運転(以降、毎年運転) | H17.4.21 | 北海道運輸局長に廃止届を提出 |
| H6.3.1 | 銀河 GOGO 往復割引きっぷ発売 | | |